

2036

— 「Fukuokaの時代」に備えよ —

平成23年8月
経済振興局職員提言チーム

提言の全体概要

■ 3つの都市像を目指して 「都市フランドの向上」 を目指す

住む魅力の向上に寄与

「多様な人材が集積する都市」

- 誰もが集い、育ち、住みたくなるまち
 - ・住みやすく、働きやすい環境づくりにより、貴重な人材を確保
- 女性が輝く都市づくり
 - ・女性がより一層輝ける都市になることで、まちの活力につなげる

住みやすさの向上に寄与

多様な「人」の交流で発展

都市フランドの向上

高度人材がエンターテインメントを育てる

高度人材が産業を育てる

「エンターテインメントシティ」

- エンターテインメントシティへの発展
 - ・多方面からの集客資源の開発を図る
 - －既存のコンテンツの集客資源化
 - －デジタル技術の活用等による新たな集客資源の開発 等

新たな魅力の創出

「高度な産業が集積する都市」

- 小売・サービス業の高付加価値化
 - ・低価格競争から脱するとともに、外国人の日常交流客を獲得。
- 都市にマッチしたモノづくりの見直し
 - ・研究開発拠点の形成と知的財産で稼ぐシステムづくり

観光客が産業を育てる

総論

予想される25年後のわが国の状況

○まず、25年後のわが国が置かれているであろう状況と、それに伴い起こるであろう事態を考えることからスタート

何が起きる？

① 生産年齢人口減少・若者減少

② 高齢化

- 生産年齢人口(=消費活発な層)の減少による需要減少、消費減少
- 社会保障費のさらなる増大
- 元気・活力の低下
- 買い物弱者の増加
- 介護・医療費の増加
- 意欲ある元気高齢者の増加
- 高齢者の観光客数の増加

③ 国際化のさらなる進展

【ビジネス】

- 国内市場が縮小する中、アジアの需要の取り込みが不可欠
※海外でのビジネス展開、国内で外国人の消費取り込みの両面

- アジア諸国を中心に、飛行機を使った移動の日常化。往来数増加。
- 「大卒の就職先が中国の企業」という時代が来る？

【集客】

- アジア諸国の所得増に伴い海外旅行者が増加。
- あらゆる集客施設で外国語対応が常識になる。

④ 情報化、科学技術のさらなる発展

- 環境・エネルギー関連のニーズの高まり
2011年の東日本大震災が契機となって、環境・エネルギー関連の技術のニーズがますます拡大。
- 情報通信網の普遍化
地方分権、機能分散(東日本大震災の影響等も)
- 医学の発展による平均余命の増加、元気高齢者の比率の増加
- 飛行機、船での海外との移動時間が短縮

○次に、福岡市の現状を分析し、その強みと弱みを整理

国際化

【強み】

- 海外での知名度が比較的高い(現在は国際化の第3段階)
 - ・第1段階:アジアに開かれた交流拠点都市として、各種施策を開始
 - ・第2段階:アジアでの知名度アップ
 - ・アジアウィーク「アジアで最も生活しやすい都市」に選定(1997)
 - ・第3段階:世界での知名度アップ
 - ・ニューズウィーク「世界で最もホットな都市ベスト10に、日本で唯一選定(2006)
 - ・モノクル「世界で最も暮らしやすい都市17位」に、日本で東京、京都と並び選定(2008)
 - ※買い物しやすさは1位
 - ※2009年16位、2010年14位、2011年16位
- 爆発的成長を続けるアジアへの近さ
 - ・約900キロの上海とは、日帰り可能な国際便が就航し、クルーズ船による富裕層・中間層の観光客が増加、RORO船の定期航路も
 - ・約200キロの釜山とは、高速船でわずか3時間で結ばれ、国際旅客数日本一
- 留学生数の多さ
 - ・東京・大阪に次いで都道府県中第3位の留学生数(福岡県)
- 福岡空港ー海外へもアクセスがすぐれる都市型空港

【弱み】

- アジアにおいてさえも、一般市民への浸透はまだ
- 他の日本の都市と同様、英語やアジア言語を話せる人材が不足
- 外国人就労数は、留学生数に比べて少ない
(就労ビザでの外国人登録者数では、福岡県は8位)



福岡市の現状(「強み」と「弱み」)②

住環境

【強み】

- 国内トップクラスの住みやすさ
 - ・コンパクトな都市規模と都市機能の集積
 - ・海山の自然が比較的近郊に残されている
 - ・地下鉄等公共交通機関や都市高速道路等の充実
 - ・都心に近く世界につながる空港、港湾

【弱み】

- 都市化による住みにくさ
 - ・集中による都心部の交通渋滞
 - ・身近な自然や遊び場の少なさ



若者の多さ

【強み】

- 人口あたり学生数政令市第2位
- 特に女性が多い
 - ・まちの活力・華やかさ
 - ・サービス業を始めとする第3次産業の進展

【弱み】

- 大学卒業者(特に理系)の就職先の少なさ
- 合計特殊出生率の低さ
- 小売業やサービス業の従業員の非正規社員比率の高さと、それに伴う所得水準の低さ(特に女性)
- 単身世帯が多いことによるコミュニティづくりの難しさ



福岡市の現状(「強み」と「弱み」)③

集客機能

【強み】

- 九州各地からのショッピング客の多さ
 - ・店舗・ブランドの充実と集積
 - ・海外アパレルが日本の第2進出先として福岡を選ぶケース多い
 - ・九州新幹線を始めとする公共交通機関の充実
- 歴史文化的蓄積と充実した施設
 - ・歴史資源(鴻臚館・寺社)
 - ・祭り(山笠・どんたく・福岡アジアマンス)
 - ・文化・エンターテインメント施設(博多座・博物館・美術館・キャナルシティ)
 - ・スポーツ(福岡ソフトバンクホークス・アビスパ福岡・大相撲)
 - ・コンベンション施設(国際会議場、マリンメッセ等)
 - ・ロボスクエア
 - ・多数のメジャーミュージシャンの輩出
 - ・多数の個性的な芸能人の排出
 - ・フィルムコミッション、映画祭
- 多様な魅力を持つ「九州」の存在
 - ・温泉、自然など本市にはない魅力を持つ都市との連携
 - ・食材の豊富さ

【弱み】

- インターネット通販等の進展による、買い物のスタイルの変化
- 九州の相対的な地盤沈下
- 「これ」という「売り」が少なく、都市ブランドが弱い



知の集積

【強み】

- 理工系大学の充実
- IT関連企業、研究機関等の集積
- 優れた技術・シーズが多数存在(九大など)
 - ・ナノテク、有機EL、水素関連、ロボット関連
- 産学連携交流センターに多くのメーカーの研究部門が立地
- レベルファイブ、ポリフォニーデジタル等、ゲーム関連企業の集積

【弱み】

- シーズがあまり製品に育っていない
- 生産拠点の少なさ(水資源や土地の少なさ)



○ これらをもとに、本市が目指すべき25年後の姿を設定

■ 多様な人の活躍により都市ブランドが向上する都市

- 福岡市は、コンパクトでありながら集積した都市機能等により、日本で、さらにはアジアで最も住みやすい都市としての評価を受け、また、魅力ある第3次産業の集積等により、西日本有数のショッピングシティとして発展してきた。
- 一方で、上海、釜山といった東アジアの都市はもとより、横浜、京都、神戸といった国内の都市と比較しても、都市のブランド力の低さが指摘されてきた。
- 今後、人口減少社会に突入し、日本全体の活力低下が言われる中で、本市においても長期的には、人口の減少、特に生産年齢人口の減少は避けられないと考えられる。
- こうした中、本市が継続的な発展を続けていくには、現状で持っている魅力を一層高めていくとともに、これまでになかった新たな魅力を見いだしながら、福岡にしかないモノ(価値)を創出し、国内外から多くの、かつ多様な人を惹きつけ、交流人口を増やしていかなければならない。
- こうした取組みにより、都市ブランドを高め、それが、さらなる魅力につながって新たな人を惹きつける好循環をもたらし、25年後においても、誰もが住みたいと思う、活力あるまちであり続けることを目指す。

提言内容

目指したい方向性Ⅰ 「多様な人材が集積する都市」

- 25年後には、福岡市においても人口の増加は見込めない状況が到来し、特に、生産年齢人口の減少と高齢者の増加は避けられない。
- こうした中で、福岡市が継続的な発展を続けるためには、あらゆる人材が集い活躍していただくことが必要。
- 特に、女性や高齢者、さらには様々な技能を持った外国人の方々には、仕事上はもちろん、生活や消費の面においても、中心的な活躍が期待される。
- そのためには、誰もが住みやすく働きやすい都市を目指す必要があり、こうしたまちには、おのずと優秀な人材が集まるとともに、企業の誘致等においても、有力な武器となる。
- 多様な人材が集積する都市をめざすことを、今後の経済施策を実施する上での、中心的なソフトインフラと位置づける。

そのために目指すこと

- ① 誰もが集い、育ち、住みたくなるまち
- ② 女性が輝く都市



目指したい方向性Ⅰ 「多様な人材が集積する都市」

① 誰もが集い、育ち、住みたくなるまち

コンセプト

- 福岡市は、現状でも、日本でトップクラスの住みやすい都市といわれているが、この強みを維持・発展させ、誰もが集い、育ち、住みたくなるまちにしていく。
- これからの高齢者には、時間的・経済的に余裕のある元気高齢者が多いと考えられるため、仕事や地域活動等への積極的な参加ができるまちづくりを目指す。
- さらに、様々な技能を持つ外国人の方々が、一人でも、家族連れでも、住みやすく、働きやすい環境づくりを行うことで、貴重な人材の確保を目指す。

何が必要？

◆ ソフトインフラづくり(環境整備)

(若者)

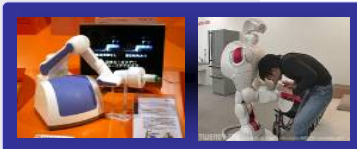
- 新卒者に対する地場への就職支援充実

(高齢者)

- 高齢者が安心して生活できる環境(買い物弱者対策等)
- ロボット技術を活用した高度な介護・医療サービスの提供

(外国人)

- 外国人が意思疎通を自由にできる環境
- 外国人が住みやすい環境
 - ・インターナショナルスクールの充実と積極的なPR
 - ・各国の食べ物がすぐに手に入る環境整備
 - ・研究開発企業等における外国人労働者の受入れ
 - ・定住や結婚の支援



(障がい者)

- 障がい者が自立して暮らせる環境づくり

(共通)

- 海外有力大学の誘致
- あらゆる世代が創業しやすい環境づくり
- コミュニティビジネスの振興



◆ 人づくり

- 義務教育・公教育の充実による基礎学力の確保
- 外国語を自由に話せる市民(外国語教育の充実)

② 女性が輝く都市

コンセプト

- 福岡市は、サービス業を中心に女性に魅力的な就職先が多く、都市機能の際だった集積もあり、大学等の高等教育進学期・就職期の若年層の女性流入が集中している。(20代では女性の方が約1割多く、日本の大都市の中で最大)
- 若年層の女性の多さは、まちの賑わいに大きな影響を与えるとともに、消費の面においても、本市の経済を力強く牽引している。
- 仕事や生活、さらには趣味の面などにおいて、女性がより一層輝ける都市になることで、さらに女性を惹きつけ、まちの活力につなげていく。
- ひいては、本市女性の未婚率の低下、出生数の増加につなげていく。

何が必要？

◆ ソフトインフラづくり(環境整備)

- 女性が働きやすい環境整備
 - ・子育て支援の充実
- 「ミス・ユニバース世界大会」の誘致
- 女性の働きやすい・生活しやすい都市としてイメージ広報
- 第3次産業の一層の活性化
- おしゃれなまちなみを演出する店舗(カフェ等)の集積



目指したい方向性Ⅱ 「エンターテインメントシティ」

○ 25年後においては、グローバル化はますます進展し、国と国との距離は、時間的にも、料金的にも、そして心理的にも非常に近くなっていると予想される。

○ 今後、福岡市が世界レベルでの都市間競争を生き抜くには、「福岡にしかないモノ」を作り出し、近くなった世界から人を惹きつけ、国内外からの交流人口を増やすことが必要。

○ 福岡市は、多くの芸能人を輩出するなど、芸所・博多のイメージを持ち、エンターテインメントとの親和性が高い。

○ 本市の持つ魅力を活用し、新たな魅力を創出しながら、時間消費型の「エンターテインメントシティ」を掲げ、交流人口の増を目指す。

○ これに加え、自然や温泉、歴史遺産など様々な観光資源を持つ九州の諸都市、さらには、釜山や上海など東アジアの諸都市とも連携し、「東アジアの一日交流圏」を形成する。

そのために目指すこと

①「エンターテインメントシティ」への発展



①「エンターテインメントシティ」への発展

コンセプト

- 福岡市には、ゲームをはじめとするデジタルコンテンツ産業が集積をみせつつある。
- デジタルコンテンツは、様々なコンテンツ関連分野への展開が期待できるとともに、「福岡にしながら」世界的なコンサートやファッションショーなど、仮想現実による様々なエンターテインメントを提供できる可能性を持っている。
- また、福岡市には、この他にも、観光施設や自然・歴史、文化・スポーツ、産業など、多くの「コンテンツ」と言えるべき素材も揃っている。
- これらをエンターテインメントの視点から見直し、磨き直して都市の魅力を高め、観光、コンベンション、ビジネスなど、あらゆる形で国内外からの集客を図る「エンターテインメントシティ」への発展を目指す。

何が必要？

◆多方面からの集客資源の開発

[既存のコンテンツの集客資源化]

- 海を活かしたリゾート、遊園地分野などで核となる企業を誘致。
加えて、エリアの特色を明確化。
- 福岡発ドラマ、映画等の制作(フィルムコミッション)
- 釜山・福岡の映画館で日韓映画の相互上映及び映画祭の共同開催
- 世界的アーティストのコンサート、世界規模のファッションショー開催
- 舞台、演劇の充実
- 国際スポーツ大会の誘致
- 博多織、博多人形等の伝統産業の活用
- 福岡競艇の魅力アップ(外国人観光客への対応、海外展開)



◆多方面からの集客資源の開発

[デジタル技術の活用等による新たな集客資源の開発]

- デジタルコンテンツを活用した集客施設、集客イベント
- デジタルコンテンツ関連企業の誘致・提携(ゲーム、アニメ、CG開発企業等に加え、デジタルコンテンツの出口となるパブリッシャーや配給元も)
- デジタルコンテンツ関連企業の間をコーディネートし、ビジネス化できるプロデューサー人材の育成・誘致・活用



◆ハードインフラ整備

- アジア・世界の諸都市と結ばれた国際空港の整備、ローコストキャリア(LCC)の誘致
- 福岡空港を時間消費型・滞在型施設に発展させ、飛行機利用者だけでなく、一般消費者も集める施設に(温泉施設、アウトレットモール、キャラクターテーマパークの設置等)
- 多様なニーズに応えられるコンベンション施設の整備
- 映像産業等を支援する企業向け開発ツール・支援システムの整備

目指したい方向性Ⅲ 「高度な産業が集積する都市」

- 福岡市は、西日本を代表するショッピングシティとして、卸売・小売業、サービス産業をはじめとする第3次産業を中心に発展。
- しかし、国内消費自体の低迷、インターネット通販等の進展などにより、このままでは、都市の活力を維持できなくなるおそれがある。
- 高付加価値化や起業・創業などにより、これまで本市の活力を支えてきた第3次産業の更なる発展を進めることが必要。
- さらに、ものづくりについても、本市にマッチする、いわば都市型のモノづくりについて振興することで、本市産業構造の重層化し、理系の学生の就職先を確保するなど、産業の高度化により、多種多様で、多くの働く場があり、従業者の所得も高い都市を目指す。

そのために目指すこと

- ① 小売・サービス業の高付加価値化
- ② 都市にマッチしたモノづくりの見直し



①小売・サービス業の高付加価値化

コンセプト

- これまで福岡市の経済を支えてきた、小売業、サービス業においては、価格以外の付加価値(高い接客技術、優れたアフターケア、リラクゼーションの向上等)を提供することで低価格競争からの脱却を目指す。
- また、海外との人の往来がさらに活発化する中、アジアへの近接性の強みを活かし、海外からの日常交流客(日常生活の消費のために日本へやってくる客)を新たな顧客層と位置づけ、小売業の他、美容、医療、食をはじめとするサービス業を中心に、獲得のための取組みを進める。

何が必要？

◆本市産業の高度化

- 小売業・サービス業の店舗における外国人対応
- より高い付加価値を提供する小売業・サービス業への発展
(高い接客技術、優れたアフターケア、リラクゼーションの向上等)
- 著名な美容関連事業者の誘致
- 起業・創業支援



◆高付加価値産業を集客資源につなげる

- 「食と健康の都」(福岡の食、九州の食、健康食品)の確立。
(「おいしく食べて、元気になれる。キレイになれる。」)
- ビューティーツアー(メイク、ファッション、文化体験などをパッケージしたツアー)の開催
- 医療ツーリズムの拡大へ向けた取組
 - ・医療機関(病院・診療所等)における外国人患者対応の推進
(医療通訳の配置、専用窓口の整備、スタッフの外国語対応等)
 - ・海外有力病院の誘致
 - ・医療ツーリズムに積極的な九州内地域(久留米、鳥栖、鹿児島等)と連携した旅行商品の開発
 - ・海外有力病院の誘致

②都市にマッチしたモノづくりの見直し

コンセプト

- 現在、福岡市に立地している有力な工場など、福岡市にマッチする製造業の分野を見定め、流出の防止や新たな工場の立地環境の整備等を進める。
- 本市に存在する、ナノテク、有機EL、水素分野、ロボット関連分野など、先端科学技術に関する有力なシーズと、ニーズとのマッチングを行う。
- さらに、福岡市がアジア諸国・九州各地の量産工場に近いという強みを活かし、これまで立地が進んできた研究開発拠点に加え、試作工場の立地拠点化を目指す。

何が必要？

◆本市産業の高度化

- 市場調査の実施と、研究開発に直結する仕組み
- 福岡市に親和性の高い製造分野の洗い出し、誘致（研究開発系、ハンドメイドのブランド等）
- シーズの豊富な応用化学分野で福岡に立地可能性のある企業の洗い出し
- 研究開発機能に加え、試作工場の集積による拠点化
- 知識創造型産業（モノづくり系）の振興（有機EL・水素関連・ナノテク関連・ロボット関連等）
- ニーズにつながる技術を目利きできるコーディネーターの育成
- 全庁一体となって本市にマッチする工業を誘致する体制
- 工業担当課の明確化
- 都市計画における工場立地可能エリアの拡大

◆ハードインフラ整備

- 研究開発型の起業を促進するためのインキュベート施設（必要な設備等を備えたもの）



経済振興局職員提言チームについて

● メンバー紹介

雇用労働課	山崎 穰	誘致宣伝課	中村 大志
科学技術振興課	濱崎 紀代子	観光振興課	梅田 剛
国際経済課	三浦 哲昭	空港対策課	柴田 敏明
企業誘致課	富田 雅志	課長(空港整備推進)	正木 康德
地域商業課	船木 紀子	経営企画課	武 可愛
創業・経営支援課	原田 耕太郎	開催運営課	山下 正人
集客企画課	深澤 宏子		
		政策調整課(事務局)	宇出 研 酒見 真次

● 検討経緯

平成23年6月15日	第1回WG
平成23年7月 1日	第2回WG
平成23年7月11日	第3回WG
平成23年7月29日	第4回WG
平成23年8月19日	第5回WG
平成23年8月31日	第6回WG